

ひかりのこ

7月園便り

聖ミカエル幼稚園

2015年6月23日

月主題：やってみる

『子育て相談』

実は現在本屋さんで並んでいる子育て雑誌『MaMacha』夏号の「お悩み相談室」に私の珍回答が掲載されています。

一つ目の質問は「3歳の息子が、『ちょっと待って』『早くして』を聞いてくれません。イライラしてしまいます。」というもの。それに対して私は「3歳になると自我が目覚めてくるので、大人の都合通りにはいかないものだと思いきらめるしかありません。どうしても急ぐときや、子どものわがままだと思うときは、どうしてダメなのか、きちんと理由を教えることです。お仕事をしている方は、職場にも理解してもらうことが大切です。理解を得られるように、日頃からのコミュニケーションにも心がけるといいでしょう。」とお答えしました。

二つ目は「おもちゃが家にあふれかえっているのですが、手放すタイミングを教えてください。」という質問。それに対しては、「子どもが遊ばなくなったおもちゃは子どもが目につかないところに隠して、忘れてしまったなら、バザーなどに出すとどうでしょう。思い出のおもちゃは保管して子どもが大人になったら出してあげてもいいですね。」などとお答えしました。

なんていい加減な回答でしょう！！私自身の子育てがこんなものですから仕方ありません。

そんな内容が掲載されましたが、「随分、お母さん方はいろんなことで悩んでいるのだなあ。」と感じました。

「悩み」は、はたから見ると「そんなことで」、と思うものもあるかもしれませんが、本人にしてみるとかなり深刻なものです。でも、その「悩み」について、実は本人がすでに答えを持っていることがほとんどです。このような雑誌に悩みを投稿される方も、自分のお子さんにぴったりの答えはもう持っているけれど、それを「確かめたい」ということなのかもしれません。

私はもともと中学校の教師をしていましたが、その頃も、また園長になってからも、お母さん方から様々なご相談を受けてきました。

私はいつも「お母さんの子育ては、間違っていないよ。自信をもって大丈夫ですよ」、とやることを基本にしています。子育ての仕方は幾通りもあるからです。基にあるのは、お子さんのことを大切に思っているか、それだけです。その上で、「こんな接し方もある。」「こんな考えを基本にもってはどうでしょう。」とお話しし、お母さんと一緒に悩みながら考えます。こちらから一方的なお話はしません。そうやってお話し合いをして、最後にお母さんがニコニコ元気になって帰っていかれると、ほっとします。「またいつでもどうぞ。」とお声をかけます。

ミカエル幼稚園の2階の絵本の部屋の向かい側に、「談話室」という、小さ

な部屋があります。もともとは幼稚園の保育に使うものを収めておく物置部屋でしたが、私が園長になった時に皆さんにお願いして作ってもらいました。相変わらず物置部屋としても使われていますので、ちょっとごちゃごちゃして、掃除機なんかもあるって、とても小さいのですが、その小ささが逆に落ち着くので、気に入っています。

「こんな子育てでいいのかな。」「なんだか息詰まるなあ。」と思ったら、職員室にいる園長やどの先生にでも「ちょっと話聞いて！」とお声をかけてください。「園長先生、先生たち忙しそう・・・」なんて思わずに。相談をお受けするのは、園長や先生たちの大切なお仕事ですからね。

園長 渡部良子

キリスト教保育

「聖書について」

お子様が入園された時に新約聖書が寄贈されたことと思います。お家で開いてご覧になったでしょうか。新約聖書は、その前に書かれた旧約聖書を母体に生まれたキリスト教独自の聖典です。旧約聖書が大地とすれば、そこから生え出た「命の木」が新約聖書であると考えていただければよいでしょう。旧約聖書がカトリックの本、新約がプロテスタントと誤解されたり、約という字が「訳」と思われ、新しい翻訳だと思う方もおられます。「約」という字が示す通り、2つの書物の違いは古い約束と新しい約束です。では新旧の違いはなにか。

ごく簡単にいうと、旧約はイスラエルという民族と神様との間で「律法」という法体系を媒介とした約束、新約はイエス・キリストという人物を媒介とした約束、しかも、イスラエルを超えてすべての人間にもたらされる救いの約束を意味しています。

本来、約束は相互に守る責任を持っているはずですが、旧約聖書に書かれているのは、一度交わされた約束を守ることができない、人間の弱く絶望的な姿です。律法を媒介とする限り人は真の幸せを手にすることができずと分かった時に、神様は大転換をしてイエス様を人間に送られました。つまり、新しい約束は、人間の努力によって守られるのではなく、このイエスという人を信じることで成立する約束なのです。ここにはもはや努力は要りません。私たちが自然に家族や友人を信じているように、イエス様をなくてはならない人として受け入れることによって、人生において計り知れない宝物が与えられます。そして人生を終えた後にも。

イエス様がどのような人かをまとめたのが冒頭の4つの福音書です。ただし、最初のマタイによる福音書から読むのは要注意です。初めから長いカタカナの人名が並び、多くの人がここで挫折します。お勧めは2つ目のマルコによる福音書です。最初に書かれ、もっとも簡潔にイエス様の姿を描き出しています。お時間のある時、ぜひ手にとってみてください。ご不明なことは遠慮なく訊いて下さい。

チャブレン 司祭 下澤 昌